

■**広瀬元恭** **蘭学者**。日本の理学の道を開いた一人。田中久重と師友で、志士から剣客・力士とも交友したマルチ人間。
ひろせげんきょう
蝦夷地直轄終1821＝ 甲斐国巨摩郡藤田村で、儒医広瀬恭平の次男に生まれる。3歳上に兄平五郎。
藤田村は五味釜川が漢学の塾を開いたところで、塾の優等生だった祖父周平が婿入りして、広瀬姓のまま分家、(仁寿館)を開いたという家柄、
ジボルト**鳴滝塾**1824＝ 3歳：母が死去。

富籤流行・・・1830＝ **9歳**：この頃、(時習館)に入門し、松井渙斎から漢学を学ぶうち、

新し物好きで気も散りやすかったことから、父が渙斎と相談し、蘭方医を学ばせようと、

滑稽+人情本 1835＝14歳：緒方洪庵・青木周弼の退塾直前、江戸の{日習堂}に入門し、坪井信道から蘭学・蘭医学を学ぶ。
・・・・・・・1836＝15歳：この年、甲州天保一揆が起きる。大久保黄斎・杉田成郷が{日習堂}に入門。
大塩平八郎乱1837＝16歳：

蚕社の獄・・・1839＝**18歳**：この年、黄斎が塾頭になる。世情不安から退塾する者が多くなるなか、師や黄斎から信頼されて勉学に励む一方、漢学者野田笛浦について漢詩も学ぶことになり、梁川星巖に会った際の口論から、自らも**憂国の士**となり、**兵法・砲術・一般科学へと関心を広めて行き、川本幸民からも影響を受け、**
天保改革弾圧1842＝21歳：この年、洪庵が大坂で{適塾}を開き、師信道は長州の江戸藩邸医に取り立てられ、薩摩藩への仕官を断った黄斎が{日習堂}を退塾。後を継いで、**塾頭になった直後、父死去の知らせ、**
順天堂始・・・1843＝22歳：師信道の命で、佐倉藩初の新屍解剖を指導。この年発行された(天保医鑑)には“純粹西洋医”と掲載。
天保改革終・・・1844＝23歳：***卒業し帰郷。大坂の洪庵を訪ねて{適塾}に入り、自ら塾を開く自信を抱くと、京都で蘭医学塾{時習堂}を開く。知人もなくしばらくは閑古鳥だったが、村上代三郎皮切りに、井沢卓爾・田中久重らが入門。**

阿部正弘首座1845＝24歳：田中久重が受講料代りにと塾の賄い婦にしてくれた妹イネに心を惹かれ、まもなく結婚。
孝明天皇・・・1846＝25歳：佐野常民が入門するも、
・・・・・・・1847＝26歳：{適塾}へ転出するなど、入門者は50名に達する一方、次々と巣立っても行く。
・・・・・・・1848＝**27歳**：**御所前の一等地に移転するほどになった。**
北斎没・・・1849＝28歳：師信道が死去。***檜林宗建から牛痘苗の入手を教えられ、種痘の成功にも立会って感激、檜林とともに共同種痘所の整備を訴えたところ、鳩居堂主人熊谷直恭が賛同、{有信堂}が創設された。さらに、かねて西洋書物を読んで書き溜めていた論文を整理して解説書「新訂牛痘奇法」を出版、医者への必読書となる。**

国定忠治磔・・・1850＝29歳：兄平五郎に牛痘苗と「新訂牛痘奇法」を送付、兄は自分の長男に種痘して成功、以後、多数の子供に実施。
尊徳報徳論 1851＝30歳：梁川星巖に再会。**藩命で佐賀藩に戻るようになった佐野常民が立ち寄り、**
万次郎帰国 1852＝31歳：**万年時計を制作して大評判になるも、虚脱感に悩む田中久重が来訪、**
ペリー来航 1853＝32歳：**その田中久重も佐賀藩に召抱えられ、一人取り残される寂しさを紛らわすかのように、**
開国開港・・・1854＝33歳：緒方洪庵へ地震見舞。
安政大地震 1855＝34歳：女性患者が死去、娘を養女にする。**すでに評判になっていた翻訳草稿「理学提要」を推敲、印刷に出し、**
松下村塾・・・1856＝35歳：***官許を受け、ユニークな似顔絵入り印鑑を押して刊行。続いて「リセランドの人身窮理書」「知生論」、**
蕃書調所・・・1857＝**36歳**：養女に婿養子広瀬元周とするに当たって、甲斐国へ帰郷し、家族を披露。**「西医脈鑑」も書店に並ぶ。**
五ヶ国条約 1858＝37歳：コレラが流行し、梁川星巖が死去。
安政の大獄 1859＝38歳：**安政の大獄による志士の運命に、自らの役割は何かと自問、西洋の実戦法や砲術の本を仕入れて翻訳に夢中になるうち、諸藩から声がかかるが、拘束を嫌って固辞するなか、妻イネがコレラで死去。**

桜田門外変 1860＝39歳：**寂しさを紛らわすように「築城新法」「三才雄弁」の著作に専念、**
8月18日政変 1863＝42歳：***家老を使わし、芭蕉の名を挙げ、在京のままで良いとまでという熱意に、ついに津藩に仕官。**
禁門の変・・・1864＝43歳：**「築城新法」「三才雄弁」を出版し、津藩のため「砲術新書」を上梓し、「西洋馬術」を謹呈。。津藩の推薦で幕臣勝海舟を訪ねてまもなく、長州藩決起による蛤御門の変で京都は火の海となり、(時習堂)も焼失。**

薩摩藩士密航1865＝44歳：**山崎の砲台を設計して、京都守護職から報償され、一層熱心に富国策を探究、**
薩長同盟・・・1866＝**45歳**：**再建なった{時習堂}に、京都守護職の家臣はじめ会津藩士、さらには一橋慶喜の家臣まで入門。**
大政奉還・・・1867＝46歳：この年、佐野常民がバリ万博へ。甲斐国藤田村の実家が火災で全焼、兄平五郎が落胆の報の一方、***幕府への建議書が勘定奉行小栗忠順の目にとまるも、大政奉還となり、**

明治維新・・・1868＝47歳：**戊辰戦争で、官軍に設置された御親兵病院長になるが、**
初の日刊新聞1870＝49歳：**肝臓に腫瘍ができて病臥、まもなく没した。**